

(2) 「3.11 東日本大震災と東京電力」 (動画視聴)

視聴時のお願い

※当該映像は、東京電力廃炉資料館のシアターホール専用の視聴映像を特別に貸し出しいただいたものです。
※著作権の関係上、携帯電話、カメラ、TVカメラ等による一切の映像の撮影、録音は禁止とさせていただきます。

(3) 記念講演 「東京電力・福島第一原子力発電所事故と廃炉への取組」



原子力損害賠償・廃炉等支援機構
廃炉総括監

ふ け た と よ し
更田 豊志 氏

1987年3月東京工業大学大学院博士課程修了(工学博士)、同年4月日本原子力研究所(現・日本原子力研究開発機構)入所。同原子力基礎工学研究部門副部門長を経て、2012年9月から原子力規制委員会委員、2017年9月から2022年9月まで同委員長、などを歴任。現在は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構廃炉総括監、東京大学大学院上席研究員(教授相当)。

(4) 玄海原子力発電所周辺の環境調査結果等について

環境放射能調査結果(令和6年度)

玄海原子力発電所が原因と考えられる放射線や放射能の異常は確認されませんでした。

温排水影響調査(令和6年度)

温排水に起因する異常は確認されませんでした。

(5) 玄海原子力発電所の安全対策について (動画視聴)

玄海原子力発電所では、福島第一原子力発電所事故の教訓等を踏まえ策定された、従来の安全基準の強化と重大事故への対策を含めた新たな規制基準への適合はもちろん、安全性向上に向けた取り組みに終わりはないと強い意思と覚悟を持って、新たな知見を踏まえた安全性向上対策に自主的かつ継続的に取り組んでいます。

●電源供給・冷却手段の多様化



多種多様な発電機・ポンプを複数配備し、電源供給や冷却手段を多様化

●運用管理面の対策

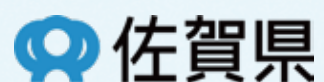


重大事故等の事態に迅速かつ確実に対応できるようシミュレータを用いた訓練を実施

●その他の重大事故対策



万一の事故時の指揮所として新たに緊急時対策棟を設置



佐賀県

佐賀県 原子力安全対策課
(佐賀県原子力環境安全連絡協議会事務局)
Tel.0952-25-7081 Fax.0952-25-7269
✉ genshiryokuanzentaisaku@pref.saga.lg.jp

© 2025 Saga Prefecture.



佐賀県の原子力安全行政

第100回 佐賀県原子力 環境安全連絡協議会

日 時 令和7年7月30日(水曜日) 14時～16時
場 所 玄海町社会体育館
次 第

- 1 開 会(会長挨拶)
- 2 内 容
(1) 協議会の歩み
(2) 「3.11 東日本大震災と東京電力」
(3) 記念講演
「東京電力・福島第一原子力発電所事故と廃炉への取組」

原子力損害賠償・廃炉等支援機構
ふ け た と よ し
廃炉総括監 **更田 豊志** 氏

～休 憩～

- (4) 玄海原子力発電所周辺の環境調査結果等について
- (5) 玄海原子力発電所の安全対策について

- 3 閉会(副会長挨拶・会長挨拶)

佐賀県と玄海町は、九州電力(株)との間で「原子力発電所の安全確保に関する協定書」いわゆる安全協定を締結し、その適正な運用をとおして地域住民の安全確保と周辺環境の保全を図っています。
佐賀県原子力環境安全連絡協議会は、この安全協定に基づき、玄海原子力発電所周辺地域における環境保全と原子力に関する知識の普及を図ることを目的に設置しています。



昭和51年6月
玄海2号機
着工



昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故



昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始



営業運転を開始
全国で22番目

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故



平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始



平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始



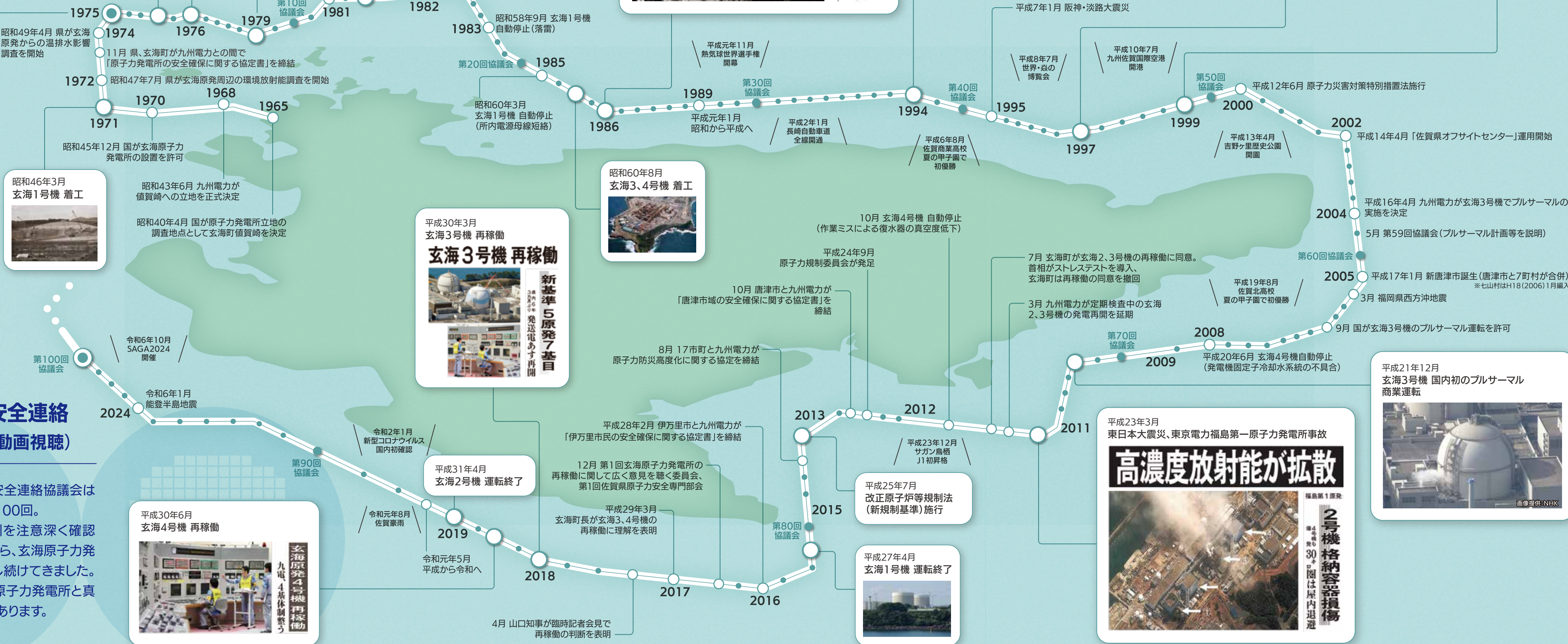
平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故



昭和50年10月
玄海1号機 営業運転開始



昭和50年1月
第1回 佐賀県原子力環境安全連絡協議会



(1) 佐賀県原子力環境安全連絡協議会の歩み (動画視聴)

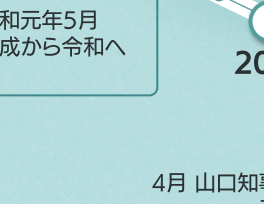
令和7年7月30日、佐賀県原子力環境安全連絡協議会は第100回を迎えました。50年にわたり、100回。さまざまな事故や自然災害からの教訓を注意深く確認し、法令や規制組織の変化に対応しながら、玄海原子力発電所の安全について問い続け、チェックしてきました。半世紀にわたって地域の先人達が玄海原子力発電所と真摯に向き合い続けてきた記録が、ここにあります。

平成30年6月
玄海4号機 再稼働



玄海原発4号機再稼働
九電4基体制整う

平成31年4月
玄海2号機 運転終了



令和元年5月
平成から令和へ

2017

2016

平成27年4月
玄海1号機 運転終了



平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行

平成23年12月
サガン鳥栖
J1初昇格

平成28年2月
伊万里市と九州電力が
「伊万里市民の安全確保に関する協定書」を締結

平成29年3月
玄海町長が玄海3、4号機の
再稼働に理解を表明

令和元年8月
佐賀豪雨

令和2年1月
新型コロナウイルス
国内初確認

令和6年1月
能登半島地震

令和6年10月
SAGA2024
開催

令和6年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和45年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和46年3月
玄海1号機 着工

昭和43年6月
九州電力が
値賀崎への立地を正式決定

昭和40年4月
国が原子力発電所立地の
調査地点として玄海町値賀崎を決定

昭和49年4月
県が玄海
原発からの温排水影響
調査を開始

昭和58年9月
玄海1号機
自動停止(落雷)

昭和60年3月
玄海1号機 自動停止
(所内電源母線短絡)

昭和60年8月
玄海3、4号機 着工

昭和57年4月
玄海2号機 自動停止
(所内変圧器異常)

昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始

昭和51年6月
玄海2号機
着工

昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故

平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始

平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始

平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故

平成12年6月
原子力災害対策特別措置法施行

平成13年4月
吉野ヶ里歴史公園
開園

平成14年4月
「佐賀県オフサイトセンター」運用開始

平成16年4月
九州電力が玄海3号機で
プルサーマルの実施を決定

平成17年1月
新唐津市誕生(唐津市と7町村が合併)
※七山村はH18(2006)1月編入

平成19年8月
佐賀北高校
夏の甲子園で初優勝

平成20年6月
玄海4号機自動停止
(発電機固定子冷却水系統の不具合)

平成21年12月
玄海3号機 国内初のプルサーマル
商業運転

平成23年3月
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故

平成24年9月
原子力規制委員会が発足

平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行

平成27年4月
玄海1号機 運転終了

平成28年2月
伊万里市と九州電力が
「伊万里市民の安全確保に関する協定書」を締結

平成29年3月
玄海町長が玄海3、4号機の
再稼働に理解を表明

令和元年8月
佐賀豪雨

令和2年1月
新型コロナウイルス
国内初確認

令和6年1月
能登半島地震

令和6年10月
SAGA2024
開催

令和6年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和45年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和46年3月
玄海1号機 着工

昭和43年6月
九州電力が
値賀崎への立地を正式決定

昭和40年4月
国が原子力発電所立地の
調査地点として玄海町値賀崎を決定

昭和49年4月
県が玄海
原発からの温排水影響
調査を開始

昭和58年9月
玄海1号機
自動停止(落雷)

昭和60年3月
玄海1号機 自動停止
(所内電源母線短絡)

昭和60年8月
玄海3、4号機 着工

昭和57年4月
玄海2号機 自動停止
(所内変圧器異常)

昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始

昭和51年6月
玄海2号機
着工

昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故

平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始

平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始

平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故

平成12年6月
原子力災害対策特別措置法施行

平成13年4月
吉野ヶ里歴史公園
開園

平成14年4月
「佐賀県オフサイトセンター」運用開始

平成16年4月
九州電力が玄海3号機で
プルサーマルの実施を決定

平成17年1月
新唐津市誕生(唐津市と7町村が合併)
※七山村はH18(2006)1月編入

平成19年8月
佐賀北高校
夏の甲子園で初優勝

平成20年6月
玄海4号機自動停止
(発電機固定子冷却水系統の不具合)

平成21年12月
玄海3号機 国内初のプルサーマル
商業運転

平成23年3月
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故

平成24年9月
原子力規制委員会が発足

平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行

平成27年4月
玄海1号機 運転終了

平成28年2月
伊万里市と九州電力が
「伊万里市民の安全確保に関する協定書」を締結

平成29年3月
玄海町長が玄海3、4号機の
再稼働に理解を表明

令和元年8月
佐賀豪雨

令和2年1月
新型コロナウイルス
国内初確認

令和6年1月
能登半島地震

令和6年10月
SAGA2024
開催

令和6年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和45年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和46年3月
玄海1号機 着工

昭和43年6月
九州電力が
値賀崎への立地を正式決定

昭和40年4月
国が原子力発電所立地の
調査地点として玄海町値賀崎を決定

昭和49年4月
県が玄海
原発からの温排水影響
調査を開始

昭和58年9月
玄海1号機
自動停止(落雷)

昭和60年3月
玄海1号機 自動停止
(所内電源母線短絡)

昭和60年8月
玄海3、4号機 着工

昭和57年4月
玄海2号機 自動停止
(所内変圧器異常)

昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始

昭和51年6月
玄海2号機
着工

昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故

平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始

平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始

平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故

平成12年6月
原子力災害対策特別措置法施行

平成13年4月
吉野ヶ里歴史公園
開園

平成14年4月
「佐賀県オフサイトセンター」運用開始

平成16年4月
九州電力が玄海3号機で
プルサーマルの実施を決定

平成17年1月
新唐津市誕生(唐津市と7町村が合併)
※七山村はH18(2006)1月編入

平成19年8月
佐賀北高校
夏の甲子園で初優勝

平成20年6月
玄海4号機自動停止
(発電機固定子冷却水系統の不具合)

平成21年12月
玄海3号機 国内初のプルサーマル
商業運転

平成23年3月
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故

平成24年9月
原子力規制委員会が発足

平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行

平成27年4月
玄海1号機 運転終了

平成28年2月
伊万里市と九州電力が
「伊万里市民の安全確保に関する協定書」を締結

平成29年3月
玄海町長が玄海3、4号機の
再稼働に理解を表明

令和元年8月
佐賀豪雨

令和2年1月
新型コロナウイルス
国内初確認

令和6年1月
能登半島地震

令和6年10月
SAGA2024
開催

令和6年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和45年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和46年3月
玄海1号機 着工

昭和43年6月
九州電力が
値賀崎への立地を正式決定

昭和40年4月
国が原子力発電所立地の
調査地点として玄海町値賀崎を決定

昭和49年4月
県が玄海
原発からの温排水影響
調査を開始

昭和58年9月
玄海1号機
自動停止(落雷)

昭和60年3月
玄海1号機 自動停止
(所内電源母線短絡)

昭和60年8月
玄海3、4号機 着工

昭和57年4月
玄海2号機 自動停止
(所内変圧器異常)

昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始

昭和51年6月
玄海2号機
着工

昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故

平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始

平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始

平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故

平成12年6月
原子力災害対策特別措置法施行

平成13年4月
吉野ヶ里歴史公園
開園

平成14年4月
「佐賀県オフサイトセンター」運用開始

平成16年4月
九州電力が玄海3号機で
プルサーマルの実施を決定

平成17年1月
新唐津市誕生(唐津市と7町村が合併)
※七山村はH18(2006)1月編入

平成19年8月
佐賀北高校
夏の甲子園で初優勝

平成20年6月
玄海4号機自動停止
(発電機固定子冷却水系統の不具合)

平成21年12月
玄海3号機 国内初のプルサーマル
商業運転

平成23年3月
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故

平成24年9月
原子力規制委員会が発足

平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行

平成27年4月
玄海1号機 運転終了

平成28年2月
伊万里市と九州電力が
「伊万里市民の安全確保に関する協定書」を締結

平成29年3月
玄海町長が玄海3、4号機の
再稼働に理解を表明

令和元年8月
佐賀豪雨

令和2年1月
新型コロナウイルス
国内初確認

令和6年1月
能登半島地震

令和6年10月
SAGA2024
開催

令和6年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和45年12月
国が玄海原子力
発電所の設置を許可

昭和46年3月
玄海1号機 着工

昭和43年6月
九州電力が
値賀崎への立地を正式決定

昭和40年4月
国が原子力発電所立地の
調査地点として玄海町値賀崎を決定

昭和49年4月
県が玄海
原発からの温排水影響
調査を開始

昭和58年9月
玄海1号機
自動停止(落雷)

昭和60年3月
玄海1号機 自動停止
(所内電源母線短絡)

昭和60年8月
玄海3、4号機 着工

昭和57年4月
玄海2号機 自動停止
(所内変圧器異常)

昭和56年3月
玄海2号機 営業運転開始

昭和51年6月
玄海2号機
着工

昭和54年3月
米国スリーマイル島
原子力発電所事故

昭和61年4月
旧ソ連チョルノービリ原子力発電所事故

平成6年3月
玄海3号機 営業運転開始

平成9年7月
玄海4号機 営業運転開始

平成11年9月
JCO東海事業所で臨界事故

平成12年6月
原子力災害対策特別措置法施行

平成13年4月
吉野ヶ里歴史公園
開園

平成14年4月
「佐賀県オフサイトセンター」運用開始

平成16年4月
九州電力が玄海3号機で
プルサーマルの実施を決定

平成17年1月
新唐津市誕生(唐津市と7町村が合併)
※七山村はH18(2006)1月編入

平成19年8月
佐賀北高校
夏の甲子園で初優勝

平成20年6月
玄海4号機自動停止
(発電機固定子冷却水系統の不具合)

平成21年12月
玄海3号機 国内初のプルサーマル
商業運転

平成23年3月
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故

平成24年9月
原子力規制委員会が発足

平成25年7月
改正原子炉等規制法
(新規制基準)施行